

## 熊本地震から4か月を経て

ルーテル学院中学・高校 校長 林田 博文

「感謝!」、この一言に尽きます。感謝を、できる限りの言葉にしましたのでご一読くだされば幸いです。

皆さまからの励ましと支えでほとんどの復旧工事を終えることができます。

熊本地震本震発生から4か月余り。行方不明の大学生は地道な捜索活動により発見され、その御霊はご家族のもとに還ることができました。時折の余震、遅滞気味の復旧工事と復興、避難所から仮設住宅へ移られた方々、未だ避難所生活を余儀なくされ、不安な中に過ごされている方も多くおられることと思います。

ルーテル学院が授業を再開して3か月余り、生徒たちはそれぞれの夏休みを過ごし新たな気持ちで学校生活を始めようとしています。

ルーテル学院は震災直後に、学院関係者の理解を得て教育環境の整備計画のゴールを「生徒が夏休み明けに登校する際には教育環境をすべて震災前と変わらぬ環境に整える」と決めさせて頂きました。そのことを工事関係の皆さまにお願いし復旧工事に取り掛かって頂きました。この祈りと願いが天に届き、ゴールに到達できます。この間には、多くの出来事がありました。主なるものをあげます。

☆学院避難所の開設（約1000名の被災された方への宿泊場所と物資の提供や炊き出し、自立支援）

☆4月29日(金)クラブ活動再開

☆5月2日(月)学年別での一時登校

☆5月9日(月)全校集会・礼拝、LHR、避難訓練

☆5月10日(火)授業再開

☆7月10日(日)パイプオルガンの修理・修復完了

☆7月11日(月)礼拝堂改修記念礼拝、礼拝堂での礼拝再開

(※生徒への対応として、被災状況の確認と授業料等減免措置や「心のケア」アンケート)を実施)

これらの出来事は決してドラマティックなものではなく、一日も早い普通の学校生活に戻るための一つひとつの小さな積み重ねです。

出来事の背景には、多くの方々の支えと表現することができない程の働きと苦労があることは言うまでもありません。また、これからも多くの支えと励ましが必要であることも確かなことです。

復旧工事が完了したとはいえ、国と県からの補助金だけに頼るわけにはいきません。学院の都合で、生徒たちに苦難や苦労を背負わせるわけにもいきません。私たち学院関係者が願うことは、「生徒やその保護者が普通の生活に戻ることに」、そのことが学院関係者のできる震災復興の小さな社会活動です。ルーテル学院にできる震災復興は、「一日も早く震災前の社会活動ができる環境をつくること」だと考えています。

ルーテル学院が復旧工事にいち早く取りかかって、工事完了を祈り願い心待ちにした根拠と理由がそこにあります。ルーテル学院にできる働きと社会活動は小さなものです。この小さな働きと社会活動が時と共にやがて大きな広がりや深まりにつながるよう願っています。私個人は、「生徒たちが元気になれば、家族も元気なる。家族が元気になれば、社会も元気になる」とも考えます。

余談ですが、私は被災直後に、「現金があれば何でもできるものではないよな!あれは物がある時の話。やっぱり、元気があれば何でもできるだよな!そして、試練の時の笑顔とユーモアだよな!」と思ったりもしました。

とにかく、復旧工事には多額の資金が必要です。当然、資金のことも考えましたが、生徒たちが不安や恐れを心から取り去り、安全に安心して学校生活を送ることのできる環境作りを学院関係者の皆さまと共に一日でも早く実現することを優先させて頂きました。このことを理解して頂ければ、資金は後からでも付いてくるものと思っています。目に見えない大切な卒業生の方々や生徒の思いに、目に見える資金は付いてくるものと思っております。

【※復興義援金（募金目標額：1億円）は、「被災生徒への授業料等減免等」と「復旧工事」のために募集をしております。ご協力をお願い申し上げます。】

生徒が、夏休み明け8月23日（火）全校集会に登校する際に教育環境をすべて震災前と変わらぬ環境に整えることができます。

ここに、二枚の写真があります。

創立当初の写真（左側）と復旧工事中の本館前写真（右側）です。



この二枚の写真の間にあるもの、二枚の写真をつないでいるものが、学院に集う一人ひとりであり希望です。九州女学院からルーテル学院へとつながれている伝統と歴史、誇りと感謝です。

90周年を迎えるまでの間には、創立当初の不安や戦争や教育事情変化への対応など幾多の試練がありました。その中でもH28熊本地震は大きなものです。

学院は大きな被災をしましたが、救いは多くの命が守られたこと、本館が創立当時の姿で立っていたことです。だからこそ、皆さまの支えとつながりと小さな一歩から、神様から与えられた試練を乗り越えていきたい！今、学院が感謝と希望の光の中に生かされ在ることを「実感」しています。

私たちは熊本地震で被災しましたが、不安や試練、恐怖の中にいた時を、徐々に乗り越え、少しずつ普段の生活に戻ろうとしています。元気と勇気、平安と希望の中での生活も戻りつつあります。

当たり前のことに感謝を抱きながら、前に前に進んでいます。

地震が与えたもの地震から受けたもの、神様が伝えたいことは「置かれた場所でのそれぞれの『実感』」かもしれせん。

聖句にある「あなた方を襲った試練で人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはなさらず試練と共にそれに耐えられるよう逃れる道をも備えていてくださいます」（コリントの信徒への手紙Ⅰ10-13）が大きな実感です。

これからも、ルーテル学院で学ぶ生徒たちが「この学校で学びの時を持って良かった！」と実感し感謝できることを誇りと喜びとして、“愛の教育”を実践すべく教育の業に励み、“感恩奉仕”してまいります。

そして、熊本地震で得た学びと実感がスクールモットーである“感恩奉仕”を實踐し、将来にお返しする良き働き「Pay Forward」につながることを願います。

（「Pay Forward」という言葉は、アメリカの小説家キャサリン・ライアン・ハイドによる小説『ペイ・フォワード』という本の中の「Pay it Forward=将来にお返りする」運動からきています）

今年、2016年10月3日（月）学院創立90周年を迎えます。記念式典〔熊本県立劇場 講演：姜尚中氏〕と感謝会〔ホテル日航熊本〕を開催します。歴史と伝統を振り返りつつ、これまでのお支えと励ましに感謝する機会とさせていただきたいと考えております。

学院創立90周年を通して、私たち学院関係者は、皆さまと共に恵みと喜び、感謝の時を持ちたいと考えております。また、熊本地震で被災した本館が復旧された姿もご覧いただくと幸いです。